
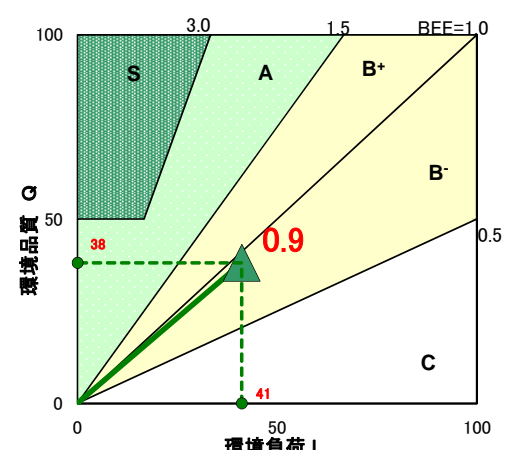


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】


■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)小山株式会社 熊本工場 新	階数	地上2F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水字上	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	60 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,750 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2015年3月5日		
敷地面積	4,701 m ²	作成者			
建築面積	2,288 m ²	確認日	2015年3月6日		
延床面積	3,498 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



BEE = 0.9

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★☆☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★☆☆☆☆	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★☆
60%超80%以下	★★★☆☆
80%超100%以下	★★☆☆☆
100%超	★☆☆☆☆

■ 排出率

98%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

75

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★☆
60点以上80点未満	★★★☆☆
40点以上60点未満	★★☆☆☆
40点未満	★☆☆☆☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■ 使用評価マニュアル：CASBEE-熊本(熊本地区) 2010年評価Ver.2 (BPU/BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小山株式会社 熊本工場 新	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水字上	構造	S造
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,750時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2015年3月5日
敷地面積	4,701 m ²	作成者	
建築面積	2,288 m ²	確認日	2015年3月6日
延床面積	3,498 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 98%
③上記+②以外の 98%
④上記+ 98%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 88**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 50**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 75**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 74**

重点事項の評価(レーダーチャート)

排出量削減の推進
安全安心で暮らしやすい社会の実現
循環型社会の実現
県の地域資源の有効活用と保全

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
 (仮称)小山株式会社 熊本工場 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応)

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei()

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境								2.7
1 音環境		1.8	0.15	-	-	-	-	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-	-	-	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	-	-	
2 負荷変動・遅延制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 種別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	-	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	昼光率:9%	5.0	0.60	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	-	-	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 換気量	0.11(1/10以上)	3.0	0.33	-	-	-	-	
2 自然換気性能		5.0	0.33	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	2.8
1 機能性		2.1	0.40	-	-	-	-	2.1
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙コーナー+執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース	4.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト:ステンレス製	4.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	・節水型器具の採用・井水利用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高: 4.0m	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	比率: 0.11	4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、修繕・更新できる。(軽鉄)	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、修繕・更新できる。(軽鉄)	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	5.0	0.43	-	5.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	5.0			
		集合住宅の評価	3.0			
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材と設備が錯綜しない	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1		消火剤	4.0	0.33	-	-
2		発泡剤(断熱材等)	5.0	0.33	-	-
3		冷媒	3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1		雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-
3		交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-
4		廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1		騒音	3.0	0.33	-	-
2		振動	3.0	0.33	-	-
3		悪臭	3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-
3		日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

環境に配慮し、敷地の広さを利用した余裕のある形状とし、シンプルで周辺に影響の少ない建物として計画しました。

Q1 室内環境

内装材にF☆☆☆☆品を採用し化学汚染物質被害を防止します。

Q2 サービス性能

維持管理の省力化を図るために耐久性の高い屋根・外装材を採用します。
井水利用可能とする。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺環境に配慮し高さを抑えシンプルな建物形状としました。

LR1 エネルギー

LED照明・高効率設備機器を採用し省エネに努めます。

LR2 資源・マテリアル

自動水栓を採用し水資源の保護に努めます。

LR3 敷地外環境

光害対策のために広告用照明の設置を行いません。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)小山株式会社 熊本工場 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		74.8
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数